



みんなのホスピタルガイド

広告

企画/
道新サービス
センター

ドクターからのアドバイス

痛風とはどんな病気？

佐川昭リウマチクリニック 院長 **古崎章** 先生

痛風は尿酸の結晶が関節に溜まり、発作的な激しい関節炎を伴う(痛風発作)病気です。血液中の尿酸値が高い状態が長く続くと関節内に尿酸結晶が蓄積し、暴飲暴食や激しい運動、脱水などにより関節炎が誘発され、足の親趾の付け根などの関節が赤く腫れて激的な痛みを伴います。この痛風発作は7～10日で次第に治まり、その後症状がなくなります。

痛風発作は、炎症を抑える薬で比較的早く治る事が多いですが、尿酸値を適正(6mg/dl以下)にしないと、多くの場合1年以内に発作がおこります。発作を繰り返しているうちに、関節周囲や身体のどこかに硬い結節ができたり、腎臓が悪くなったり、尿路結石ができたりします。また、血清尿酸値の高い人は心血管障害や脳血管障害の可能性が他の人より高い事がわかっており、これを防ぐために尿酸値以外の動脈硬化のリスク因子にも注意する必要があります。

高尿酸血症・痛風治療ガイドラインによりますと、痛風発作があった人は尿酸値6mg/dl以上、糖尿病、高血圧、脂質異常症、慢性腎臓病などのある人は尿酸値8mg/dl以上、リスク因子のない人は尿酸値9mg/dlを超えた場合に尿酸値を下げる治療が必要となります。尿酸値は遺伝的要因と環境要因の両方が関係するため、治療薬の選択の際に見きわめが必要となります。痛風発作になったことがある方や尿酸値が高い方は、かかりつけの医療機関や痛風を診療する医療機関に相談することをお勧めします。



北海道大学医学部卒業。
医学博士。日本リウマチ学会認定
リウマチ専門医。